

最近の東北沖の静穏化に関して
付録: 四川の余震解析
(財)地震予知総合研究振興会
松浦 律子

物理過程を推測できる
地震活動定量解析手法としての
点過程モデル開発

- 大余震前の余震活動度の特徴的変化
静穏化→回復
Matsu'ura(1986)
- 同質とみなせる領域のETASモデルからの
「乖離」としての相対的静穏化
Ogata(1988) 東北沖

最近の余震例

- 2008ブン川地震
 - 国家地震局のデータ 規模の一貫性と均質性
 - USGSのM4.9以上のデータ

素直な余震
数が低調
↓
大きい余震の心配が少ない
本震の破壊核が大きい、長周期が出たろう





